

(第 III 部) 本プロジェクトをとりまく環境

1) 災害情報ハブの取組状況について～官民の情報連携による災害対応の実現～

門脇 裕樹 (内閣府政策統括官 (防災担当) 付企画官)



門脇企画官からは、内閣府が取り組む「災害情報ハブ」の取組状況について発表がありました。門脇企画官は「災害時に必要な情報が不足しているということはよく指摘されるが、熊本地震においては、被災市町村の状況や被災者の動向、物資の状況等の把握が困難であったことが指摘されており、ICT の活用によるこれら課題の解決に向けた取組が必要とされた。また、経団連からも ICT の積極的な利活用とともに、災害時に必要な情報に関する官民の相互連携が必要という提言を受けました。こういった状況を受けて、推進チームを設置し、検討を進めてきた」と、取組の背景を述べました。

今年度の成果としては、門脇企画官は、「1 番目は基本的なルール・枠組みの構築です。様々な関係機関の方に参加していただくので、まずは基本的な合意事項をルール化することとしています。基本 3 原則として、①オールジャパンの体制で取り組むこと、②ICT を積極的に活用すること、③現場で役に立つ、実行性のある成果を創出していくことを基本理念としている。2 番目に、具体的な取組として、重点テーマを五つ設定し、①携帯電話の位置情報を活用して被災者の避難動向を把握する取組、②指定避難所・物資集積拠点の情報整理、③ライフラインの被害状況の一括把握、④インフラの被災状況の把握、⑤支援物資の供給情報の共有について検討を進めてきた。3 番目に、今年度の取組を踏まえ、来年度は試行的に実際に現場

での取組を進めていきたいと考えており、その活動を支援する官民チームを構成していきたいと考えている」としています。

門脇企画官は最後に、「今年度は基本的な情報項目が整理され、実際に動ける体制は整ってきた。来年度の重点テーマについては、指定避難所やインフラなど、引き続き検討を進めてくとともに、災害情報ハブの取組を成長・発展させていきたいと思っている。新たなテーマとしては、宇宙技術、SNS 情報、AI 等を活用し、防災分野への活用可能性について検討していきたいと考えている」と、災害情報ハブの将来展望について話しました。

今年度の検討による成果物の骨子	
1. 基本的なルール・枠組みの構築	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 以下のような事項を災害情報ハブ推進チームの基本的な合意事項としてルール化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本3原則に基づく基本理念（オールジャパン、ICT活用等） ・ 作業部会での議論も踏まえた情報共有等の基本ルール（情報流通のための環境整備、機械可読な整理等） ○ 各構成員の具体的取組等、更なる発展に向けた包括的な取決めの締結（内閣府・民間委員の代表者レベル） ○ 個々の民間との情報流通や災害時連携のための個別の取決めの締結 	
2. 重点テーマに係る取組成果等 <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報カタログの作成のほか、以下の事項に取り組む <ul style="list-style-type: none"> ① 被災者の避難動向把握（携帯電話ビッグデータ） <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月5日に三重県防災訓練にて実証実験 ・ 今後は首都直下地震を想定した実証実験を実施 ・ 実験を経て実装に向けた技術的制度的課題を整理 ② 指定避難所・物資集積拠点等の施設情報整理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設等ごとに必要な情報項目を整理し働きかけ ③ ライフラインの被害状況の一括把握 <ul style="list-style-type: none"> ・ システム構築に向けた様式等の課題を整理 ④ インフラの被災状況等の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報毎の在り処を整理したうえで、課題を整理 ⑤ 物資供給情報の共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ 物資供給に必要な情報項目を整理 ○ 各情報を1つのシステムに集約する取組を試行 	3. 現場で情報収集・整理を支援する官民チーム <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の九州北部豪雨において、防災科研が現場において関係者から情報を集め、SIP4Dを活用して情報を収集・整理し、現場で閲覧する取組を試行した ○ 同様の目的で、内閣府と「災害情報ハブ」推進チームの民間メンバー有志によるチームを形成 ○ 官民のチームによって情報収集・整理を試行するイメージ（情報収集・整理にはSIP4Dを活用する方向で調整中） ○ チーム形成後、来年度から試行的取組を開始し、チームの役割・位置づけ、メンバーの追加等について課題を精査し、チームの実効性を向上
	4. 災害情報ハブ関係予算のとりまとめ <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害情報ハブ関係の予算案の報告

